

施工される皆様へ 人工木デッキの特性と取扱い上の注意 | ネオカットウッドデッキ

■ 商品お受け取りの際の注意とお願い

- 商品発送の際には、ご迷惑をお掛けしないよう細心の注意を払っておりますが、作業遅れなどのトラブルを未然に防ぐためにも届いた商品の内容チェックは、受け取ってすぐに行うようにし、不備がありましたら早めのご連絡をお願い致します。
- 根太材及び人工木の床板・幕板は、多少の曲がりがある場合がありますが、組み立てる際にこの曲がりには修正できますので品質上の問題はありません。
- 人工木は天然木を50%を含むため、材料の特性上、製造時期により若干の色の差がありますので予めご了承ください。

■ 保管上の注意

- 人工木材は、①立て掛けたり、平らでない場所に置きっ放しにした場合、②湿気のある地面に直接置いた場合、③強い日差しが当たる場所に置きっ放しにした場合、このどの場面でも同様に、反り、ねじれを発生させます。この反り、ねじれは組み立てるためにビス止めることで解消されますので品質の面で問題はありませんが、施工時に支障が出ますので、保管はコンクリート土間や枕木上等の変形が起きにくい適切な場所に保管してください。また、直射日光が当たらないように屋根がある所に保管してください。やむを得ず屋根が無い所に保管する場合は、遮光性のあるシートを被せるなどの対策をしてください。
- 高温による部材変形を防ぐため、暖房機やたき火の近くには置かないようにしてください。
- 商品の上に長時間にわたり重量物を置かないでください。

■ 人工木デッキの特性

- 〈色のばらつき〉 ・ネオカットウッドは天然木の風合いを出すために、木粉が多く含まれています。そのためデッキ材や幕板、製造時期によって、部材ごとに多少のばらつきがあります。・表面をサンディング処理（サンドペーパーで削る）しているため、見る角度によって光の当たり方が変わると色や濃淡の差異があるように見えてしまうことがあります。
- 〈色移り〉 ・ネオカットウッドは経年変化により商品に含まれる成分が色移りの原因となるため、デッキや手摺上には衣類・布団・洗濯物などを直接置かないでください。また成分が雨水などと混じり、衣類等に付く場合がありますのでご注意ください。
- 〈カビやシミ〉 ・品質には問題ありませんが、外部から飛散したカビ菌やサビなどは防ぐ方法はありません。これは人工木に限らず天然木のウッドデッキにも共通することです。明るい色の方が汚れやシミ、カビなど目立ちやすい傾向にありますので、気になる方はダーク系をおすすめします。
- 〈温度差による伸縮と反り〉 ・ネオカットウッドは樹脂が配合されていますので、温度差によって多少の伸縮があります。・場合により多少の反りが発生することもあります。その際、デッキ表面に水たまりができることもあります。製品の品質には影響ありません。また、反り上がりを防ぐために、必ず束や根太を地面（下地）にしっかりと固定してください。
- 〈その他注意〉 ・デッキ上に空き缶などの金属製のものを放置したり、鉄粉や鉄の切屑を付着したままにすると、木粉と反応して黒いシミになる場合がありますので避けてください。・木粉が多く含まれる人工木の特性上、水気や湿気の多い場所への設置はカビや変形の原因となりますので避けてください。

■ カビ・シミの洗浄方法

[漂白剤を使用した洗浄方法]

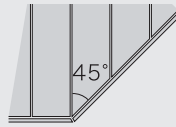
1. デッキ表面をホウキなどで掃き掃除します。
2. ご使用になる次亜塩素酸系漂白剤（キッチンハイターなど）の用法を守って、まんべんなく塗布します。そのまま数分～数分放置します。
3. たわしなどでこすり洗った後、塗布した漂白剤がしっかりとれるように水で洗い流します。
4. 強く絞ったぞうきんなどで水を拭き取ってください。

※黒半纏の場合

- ・カビかタンニンなどの汚れの可能性があります。タンニンによる汚れの場合は、専用の木材洗浄剤がありますので当社までご相談ください。

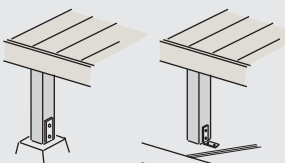
■ 施工上の注意

- 商品の施工については、必ず取扱説明書（商品と同梱）に従ってください。
- 根太材は丸鋸を連続して使用すると、熱で溶けた樹脂が刃に付着し切れ味が悪くなってきます。大量に切る場合は、目の粗い鋸刃をご用意いただき、かつ冷ましながらの作業をお願いします。刃に台所用洗剤を塗り、滑りやすくさせるのも効果的です。また、ご用意いただく丸鋸は据え置き式の大型のものにしてください。
- 床板の角度切りは45°以上になります。
- 樹脂製の束を使用しているため、デッキの最大の高さはH800までとなります。
- R状デッキの幕板の半径は5,000mm以上になります。
- 床板を幅切った場合は、強度が低下しますので、中空部もしくは下地に補強材を入れてください。
- 根太材は発泡剤を使用して成形している為、幅切できません。
- クレームを発生させないために特に注意していただきたい点



- ①日差しや商品の温度差により、床板が反り上がろうとする力が働きます。そのため、床板の長手方向の両端部が根太ごと持ち上がる恐れがありますので、持ち上がらないように地面と束をしっかりと固定させてください。

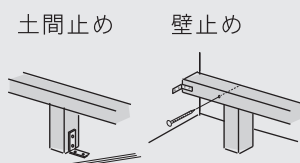
ハイデッキの場合



羽子板付きの束石を使い、束石が持ち上がらないように地面と固定。ベタ基礎の場合はL金具で固定。

※万一、左図のような束の固定がどうしてもできない場合は、別案をご提案させていただきますのでご相談ください。

ローデッキの場合

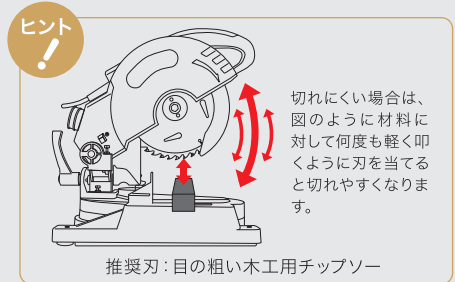


束と土間をL金具で固定する。土間へのビス打ちができない場合は壁面へ止める。

●参考お手入れ方法

状態	お手入れ方法				
	布	デッキブラシ・タワシ			サンディング
	雑巾掛け	水洗い	中性洗剤	次亜塩素酸系漂白剤	サンドペーパー #40~60
ほごり・汚れ	●	●			●
水染み		●	●		●
泥水		●	●		●
キズ					●
焦げあと					●
カビ				●	●
苔		●	●		●

※次亜塩素酸系漂白剤を使用する場合は、周囲の植栽、芝生等にかからないように養生して使用してください。



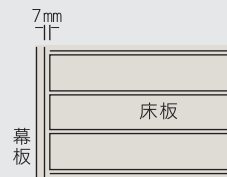
ヒント

切れにくい場合は、図のように材料に対して何度も軽く叩くように刃を当てると切れやすくなります。

推奨刃：目の粗い木工用チップソー

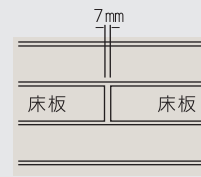
- ②人工木は、天然木よりも気温による伸縮があります。そのため、床板を張る際には長手方向について、7mm隙間をあけ、伸びしろをしっかりと確保した張り方が重要になります。

端部（スタート部）



スタート部については、幕板と床板の間隙を7mmあける。

中間部（継ぎ目）



床板同士をつなげる箇所は、隙間を7mmあける。

※幅方向については当社の止め部品を使う事で自動的に7mmの隙間があく形になります。※汎用部材の床板は、お送りしたそのままの長さで使うようにはできていません。左記の説明に合わせるためには現場でのカットは必須になります。

- 作業中に誤って付けた擦れなどの表面キズは、#60程度のなるべく粗いサンドペーパーを使用して修正してください。

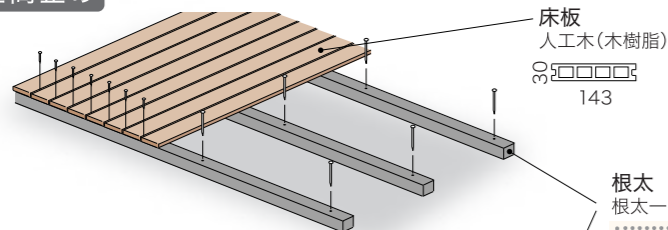
デッキ用ハンヨウ部材 (根太一デッキ) 施工方式 | ネオカットウッドデッキ

束無し (L-1方式)

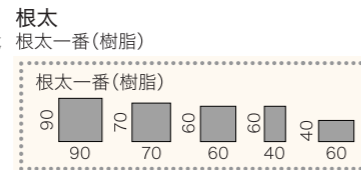
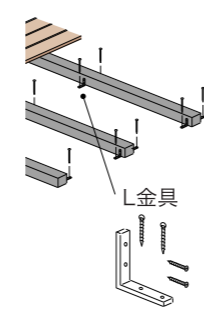
床板の反り上がりに伴う端部の浮きを押さえるため、根太を土間あるいは壁のどちらかに止まるようにしてください。

土間止め

コンクリビスまたはアンカーによる止め

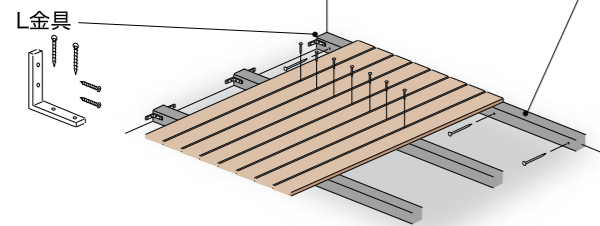


L金具+ビスによる止め



※水勾配に対して根太を垂直に設置する場合は、必ず束(スペーサー)等を入れて水が滞留しないようにしてください。

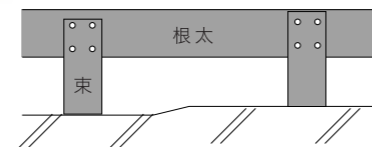
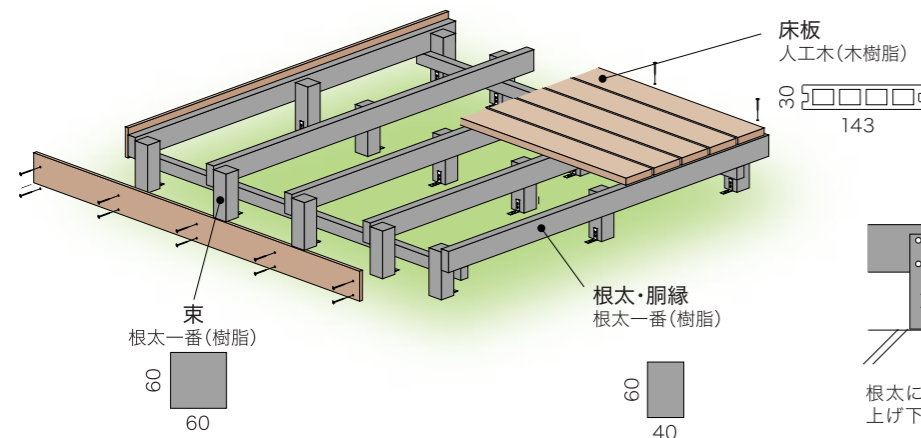
壁止め



束あり① (L-2方式)

束の脇から根太を止める方式

床板の反り上がりに伴う端部の浮きを押さえるため、根太を土間あるいは壁のどちらかに止まるようにしてください。



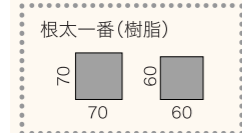
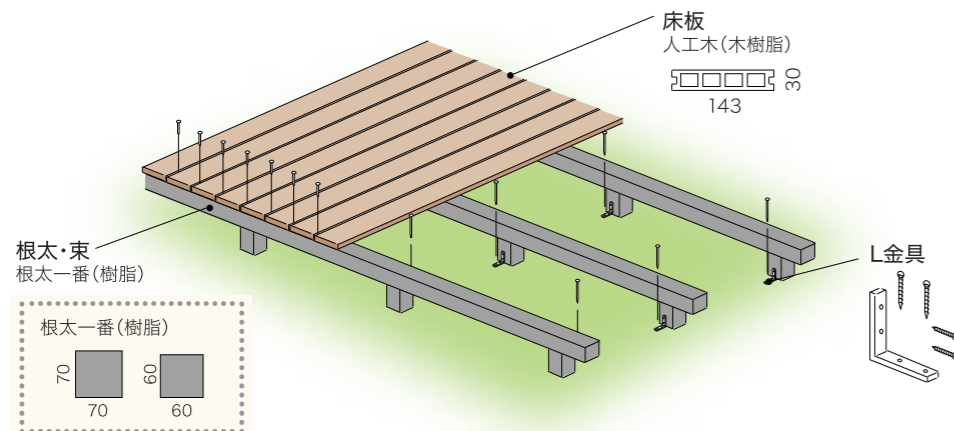
根太に束を止める際に、その位置の上げ下げによって高さ調節ができます。

束あり② (L-1方式)

角材を使い、根太の下に束を取り付ける方式

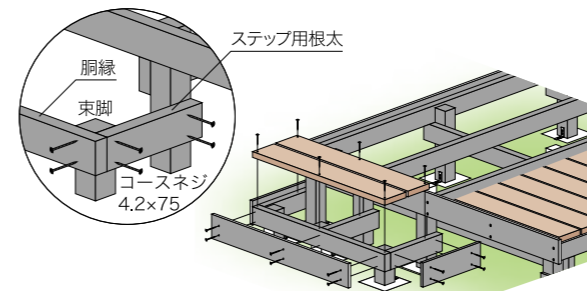
床板の反り上がりに伴う端部の浮きを押さえるため、根太を土間あるいは壁のどちらかに止まるようにしてください。

土間止め



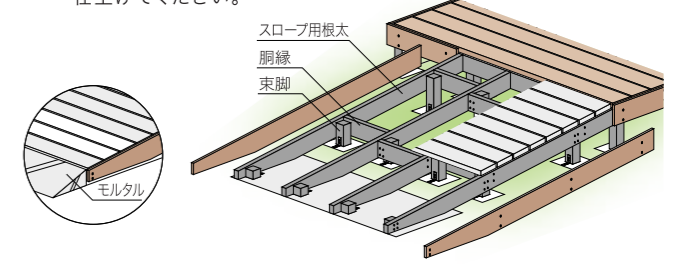
ステップの施工

- ①土台部にステップ用根太、胴縁、束脚を固定してください。
- ②床板、幕板を固定してください。



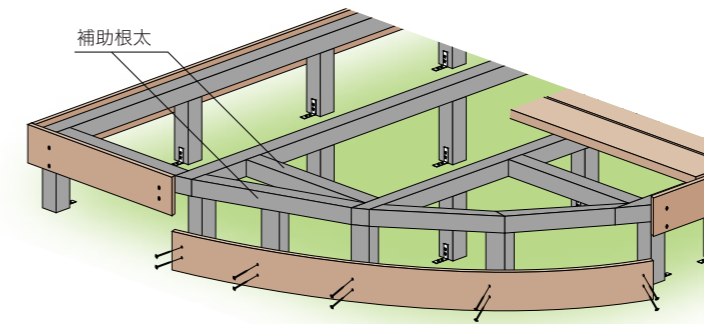
スロープの施工

- ①勾配を決め、スロープ用根太、胴縁を束脚に固定してください。
- ②床板、幕板を固定し、最下部はモルタル等で仕上げてください。



斜辺、R状デッキの施工

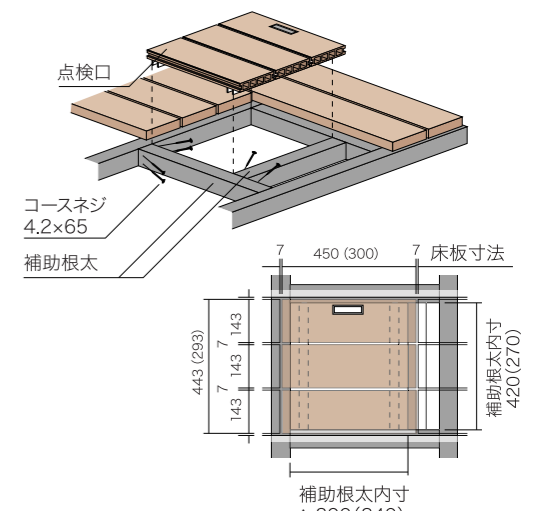
- ①斜辺もしくはR状に合わせて補助根太を固定してください。
- ②斜辺もしくはR状に合わせて床板、幕板を固定してください。



※R形状の幕板の取り付けは、R5000以上になります。

点検口の取付

点検口に合わせて補助根太を固定してください。



※各寸法は点検口450角の場合、()寸法は300角の場合となります。

